

大学名 愛媛大学

表題 国立大学法人愛媛大学DX推進室の設置

取組概要(背景)

DX(Digital Transformation)はSociety5.0の基盤ともいわれ、現在のコロナ禍の社会においてその重要性がさらに高まり、令和3年3月に閣議決定された第6期科学技術・イノベーション基本計画の重要テーマの1つとしても挙げられています。大学においてDXにより目指すべきものは、単なる情報のデジタル化ではなく、その先にあるサイバー空間を活用した、実空間での学び方や究め方、働き方の改革です。

これらの目的を達成するため、令和3年10月1日に「DX推進室」を設置し、取組の領域・内容に応じたOODAループ(※1)によるアジャイル型プロジェクトチームを組織する予定です。

《プロジェクトチームで取り組むべきDX推進の例》

教育系

- e-Learning環境の充実
- 個別最適化された学習
- 遠隔授業を活用したカリキュラム・ポリシーの策定
- 物理的な距離を越えた学習や交流の実現
- VR教材を含むデジタル教材の開発と活用
- 個々の学習記録を活用した各種支援

学術・研究系

- オープンサイエンスの推進
- アウトリーチ活動
- 機関リポジトリの拡充
- 研究データ管理・公開・検索基盤の構築・運用
- 図書館員、データキュレーターによるメタデータ、公開レベル統計情報棟の管理・公開

大学運営業務系

- 全学的な情報セキュリティ
- 在宅勤務(テレワーク)
- 遠隔会議(資料のデジタル化)
- 電子申請(書類・押印の廃止)
- 情報共有(SNS、スケジュール)
- クラウド環境の利用
- RPA(プロセスオートメーション)

(※1)スピーディーに意思決定をするためのフレームワークであり、Observe(観察)・Orient(方向づけ)・Decide(意思決定)・Act(実行)の頭文字を取り、この4つの過程を通じて成果につなげることを目指すもの。

取組の目的・目標

DX推進室では、全学的な視点から、DXの推進により実現すべき「ビジョン」を明確にし、その上で、デジタルを活用した業務の変革を推進します。加えて、新たな教育・研究価値の創造及び業務運営の効率化に資する取組や活動を支援・管理運営することで、大学の「教育系」「学術・研究系」「大学運営業務系」の分野において、三位一体となってビジョンの実現に取り組めます。

